

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
350009	XZY3350009	2	前期	国際学部国際文化学科	専門	選択	2年
授業科目	担当教員			国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	選択	2年
				情報文化学部情報文化学科	専門	選択	2年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	×	×	×
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	×	×	×
国際経済史	石川 耕三			情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	×	×	×
		情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	×	×			
授業目的							
第二次世界大戦後、国際経済は様々な変化を経験してきた。この講義では、今日の私たちが暮らす経済のしくみがどのように作られてきたのか理解するため、第二次大戦後の国際経済の歩みと構造を解説する。その際、基礎的な国際経済学の理論を紹介しつつ、理論に基づいて国際経済史のそれぞれの時期区分を提示し、現在の我々が生きる日本経済の成り立ちと仕組み（構造）を考える。							
各回毎の授業内容							
第1回 【授】イントロダクション： 国際経済史とはなにか？ 【前・後】要旨の提出				第9回 【授】累積債務問題： ラテンアメリカ 【前・後】レポートの準備			
第2回 【授】第二次大戦後の国際経済の出発点： プレトンウッズ体制とは？ 【前・後】要旨の提出				第10回 【授】東アジアのダイナミズムと「東アジアの奇跡」 【前・後】レポートの準備			
第3回 【授】戦後復興期の特徴と構造 【前・後】要旨の提出				第11回 【授】社会主義経済の苦悶と「移行経済」問題（1）： 東欧 【前・後】レポートの準備			
第4回 【授】戦後の黄金時代（1） 【前・後】要旨の提出				第12回 【授】社会主義経済の苦悶と「移行経済」問題（2）： 東アジア 【前・後】レポートの準備			
第5回 【授】戦後の黄金時代（2） 【前・後】要旨の提出				第13回 【授】アジア通貨危機と国際金融市場の混乱 【前・後】要旨の提出			
第6回 【授】戦後の黄金時代（3） 【前・後】要旨の提出				第14回 【授】世界金融危機と欧州国家債務危機（2007-2012） 【前・後】要旨の提出			
第7回 【授】黄金時代の黄昏（1）： プレトンウッズ体制の崩壊 【前・後】要旨の提出				第15回 【授】経済統合とグローバリズム 【前・後】要旨の提出			
第8回 【授】黄金時代の黄昏（2）： 石油危機とスタグフレーション 【前・後】要旨の提出				第16回 【授】期末試験			
成績評価方法							
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	強調・指導力	発表・表現	その他	評価割合(%)
定期試験	30	20			10		60
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート	10	10		10			30
授業態度・授業への参加			10				10
成果発表（口頭・実技）							
演習							
その他							
期末テスト（60%）、中間レポート（30%）、授業態度・参加（10%）により評価する。 中間レポートを提出しなければ、ほぼ単位は取得できないことに留意。							
教科書参考書							
教科書は使用しない。講義資料を毎回配布する（欠席した場合、原則その回の講義資料は配布しない）。 参考書： 猪木武徳[2009]『戦後世界経済史』中央公論新社（中公新書）、岩本武和他[2012]『グローバル・エコノミー[第3版]』有斐閣（有斐閣アルマ）。							
受講に当たっての留意事項							
教科書は使用しないが、講義中に随時参考文献を紹介するので、自分で文献を入手し、積極的に読むことを期待します。受講前に経済学の前提知識を要求しないが、経済学を学ぶ意欲を持ち、自主的に予習・復習することを期待します。							
学習到達目標							
第二次世界大戦後の世界経済のあゆみとその仕組みを、基礎的な経済理論に裏打ちされた理解の上で、自信をもって説明できるようになること。							
JABEE							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習